

## TOYOTA 総合ラインアップカタログ「T-time」vol. 8

私の、  
最上の出会い。

たねや社長  
山本 昌仁氏



「たねや」の歴史を守るために、  
和菓子を変えていく。  
ここ近江八幡から、世界に目を向けて。

生まれたときから、和菓子はいつもそばにあった。  
そして今、「たねや」4代目社長として、  
140年の歴史を次の世代につなげていく責任がある。  
そのために変えていくことがあり、守り続ける心がある。



**山本 昌仁**  
1969年、滋賀県近江八幡市生まれ。  
1872年創業の老舗和菓子舗「たねや」の長男として  
16歳より10年間、和菓子づくりの修行を重ねる。  
24歳の時、全国菓子大博覧会にて最年少で工業菓子の最高賞を受賞。  
2011年、4代目社長に就任。140周年を迎えた今、  
ふるさと近江の自然の味を活かした素朴な和菓子にこだわる一方で、  
ふわっと軽いバームクーヘンでサブ地下に行列をつくる  
洋菓子ブランド「クラブハリエ」を展開するなど、  
たねやグループの若き総帥として活躍が目まぐるしい。

父を超えることより、  
自分の世界をつくればいい。

43歳の今に至るまで、和菓子は切っても切れない存在です。仕事人間の父(現会長の山本 徳次氏)に育てられた私は、16歳から10年間、修行として東京と姫路、2人の師匠にお世話になりました。そこでお菓子づくりの基本と人としての礼儀作法を学ばせていただきました。外に出て初めて感じたことは「たねや」と父の大きさでした。「父を抜かなければ次を継げない」。そう思い込んだ20代でした。30代に入り様々な経営者の方からお話を伺うようになると、「抜くとか抜かないではなく、自分自身の世界をつくればいいんだ」と考えられるようになり、ものすごく気持ちが楽になりました。2011年に社長を継ぎましたが、今も父と母のことを尊敬しています。

## TOYOTA 総合ラインアップカタログ「T-time」vol. 8



続けるために変えていく。  
新しいヒントは世界中にある。

140年の歴史や伝統も、続けなければ終わってしまいます。続けるためには、変えていくことが必要なのです。たとえば「たねや」の礎を築いた「栗饅頭」。これは戦後砂糖が貴重な時代に生まれたものですが、今とは求められる味が違います。伝統の商品を守るために、甘さを抑えるなど材料の配合を毎年少しずつ変えています。それも、お客様に気づかれないように。そこがプロの技なのです。1年の間でも、夏はあっさり、冬はちょっと重くという微調整をしています。昨年、イタリアのローマからミラノにかけて、ワイナリーやハム工場を視察する機会がありました。その時に出会ったのがエメラルドグリーンのオリーブオイル。美容と健康に良いフレッシュなオリーブオイルを和菓子に使えないかと考えたのが「オリーブ大福」です。大福にオリーブオイルを垂らすと、お餅に少しでも効かせた塩味とよく合います。時代的にちょっと早すぎたかなとも思いますが、カステラを考えてみてください。昔ポルトガルから伝わった洋菓子が今では日本のお菓子になっているでしょう。世界に目を向ければ、何かしら次へのヒントが見つかります。

守るべきことは、  
おいしさへのこだわりと近江商人の心。

もちろん、「たねや」にも変えてはならないことがあります。和菓子屋の基本である餡は、これからも厳選した小豆と自家製にこだわり続けます。洋菓子ブランド「クラブハリエ」のバームクーヘン。あのふわっと軽い味わいは当初から変えていません。硬くて重いバームクーヘンより絶対においしいと信じているからです。そして最も大切にしているのが「末廣正統苑」。「たねや」の商いに対する心得と近江商人の精神を、現会長が30年前、京都の先生と相談を重ねまとめた書物です。商道は人道。人間性をひたすら磨き、お客様への感謝を忘れないことの大切さが説かれています。これをすべての社員が心の教科書として所有し、意識をひとつにしています。変えていくことが数多くあっても、この書物があるから私たちは迷わないのです。

北之庄計画。次の世代のための、  
自然に学ぶ町づくり。

大阪にも東京にもない「自然に学ぶ町づくり」というビジョンを掲げて、3万5千坪の土地を北之庄に購入しました。様々な植物や野鳥、昆虫が生きる里山を蘇らせ、そこに和菓子や「クラブハリエ」の

バームクーヘンの見学型工場を建てる予定です。目の前の畑で採れたものでできたお菓子を、緑に囲まれた環境の中でお求めいただき、お召し上がりいただきたい。一粒の種が近江の大地にしっかりと根を張り、多くの実りを結ぶように、「たねや」もこの先200年、300年とこの地に息づき、ここから世界に発信していきます。

良い出会いを重ねてきたから、  
今の私がある。

商いは人と人のつながり。多くの人とのお出会いがあって、今の私があります。一人ではお店は成り立たないし、本当に生きていけませんから。これからも良い出会いを重ねたいですね。クルマとの出会いは、子供の頃、父のクラウンでドライブに連れて行ってもらったことを思い出します。乗り心地が良すぎて私はすぐに眠ってしまいましたが、お店の配達にダイハツ・ミゼットという三輪車を使い始めたのは、滋賀でうちが一番早かったそうです。私自身はスーパーカーが人気の時代に育ちましたから、クルマはかっこよくなければと思っています。クルマはいつまでも憧れの存在であってほしいですね。

 最上の出会いをトヨタ店で。